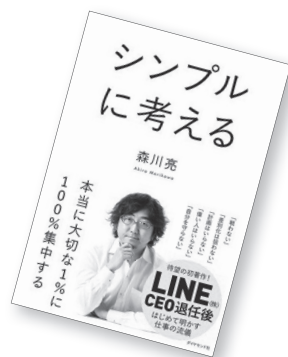


「シンプルに考える」

著者：森川 亮

出版：ダイヤモンド社

発行：2015年5月29日



LINE 株式会社 CEO 退任後、仕事の流儀について明かされたこの著書を読み、働く上での思考が変わりました。「確かに・・・」と納得する内容ばかりであり是非とも読んで頂きたいと思い、ご紹介させていただきます。

この著書は、以下のように構成されています。

- 第1章 ビジネスは「戦い」ではない
- 第2章 自分の「感性」で生きる
- 第3章 「成功」は捨て続ける
- 第4章 「偉い人」はいらない
- 第5章 余計なことは全部やめる
- 第6章 イノベーションは目指さない

彼は LINE 株式会社の株式上場直前、CEO を辞任し新たな会社を立ち上げました。常に「シンプル」に考え、使命感を持ってユーザーのために尽くし続けています。彼の働き方や生き方は素晴らしく、多くの働き手が彼のように考え、地位や名誉のためでなく、失敗を恐れず常に「何が本質か？」を考えて行動することができれば素敵だと思います。

書かれている内容の中で、特に強く共感した部分についてご紹介させていただきます。

我々はプロ意識を常に持ち、ユーザーのために取り組まなければなりません。知識やスキルアップは自らが行うものであり、失敗をしても「モチベーション」を自らが上げていかなければなりません。しかし、働き手は受け身であることが多く、「上司からモチベーションを上げてもらう」、「会社に教育してもらえらる機会」を伺っています。

また、過去の成功を捨てきれず、自らの功績を守ろうとして戦う人がいます。これでは、新たな一歩を踏み出すことができず、ユーザーを第一に考え

た商品開発やサービスの提供ができません。本当に大事なことは、ユーザーが求めていることを聞き、自らの頭で掘り下げて考え抜くことだと思います。そして、目の前のニーズに愚直に応え続けることで、いつしかイノベーションを起こしているのでしょう。

事例が紹介されています。

LINE の起動時に広告が出て来たら、現在のように多くの方が利用していたのでしょうか？彼らは開発途中に悩んだそうです。起動時に広告を表示させ、広告料をとることで収益を確保する方法を選ぼうとしました。しかし、彼らはユーザーの使い勝手を最優先しました。起動時に広告が表示されれば煩わしく、ユーザーの支持を得られないと予測したのです。収益を確保するため、スタンプを販売しユーザーが自ら広告を見て、スポンサーのスタンプを使用することを選択したのです。これが、LINE の成功へと繋がった、ユーザーを第一にシンプルに考えた結果です。

「あれも大事、これも大事」と悩まず、表面的な価値に惑わされるのではなく、「何が本質か？」を考え尽くす。そして、最も大切なことに全ての力を集中させる。森川氏がやって来たことは、この一点に尽きます。過去の栄光にとらわれず、「成功」を捨て続け常に前を向いているからこそ、彼は現在も挑戦し続けているのでしょう。

起業教育委員会 企画委員

大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校 教諭 大中 真太郎